

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

ふるさと納税で地方を活性化へ

福島大学附属中学校

3年 中山 黎一

私が、「税」と聞いて真っ先に頭の中に浮かんだのは「ふるさと納税」です。なぜなら、先日「2016年度のふるさと納税の、全国の自治体への寄附総額が約2,840億円に上り、前年度の1.7倍に増えた」というニュースを見たからです。福島県では湯川村がトップでした。私はふるさと納税とはどんな税なのか、なぜ湯川村がトップだったのか疑問に思いました。

詳しく調べてみると、ふるさと納税は自分の出身地などゆかりのある地域などを応援する制度でした。「ふるさとへの恩返し」、「応援したい自治体への支援」が目的で、自治体に寄附すると年収などで決まる上限額までなら寄附額を除いた分が所得税と住民税から控除されます。寄附金総額が増えた要因は、返礼品が充実したことやネットでの手続きが定着したことが要因になっているようです。私の住んでいる福島県のトップは湯川村の3億2,800万円でした。これは特産品のコメを返礼品にしたことで全国から寄附が殺到したことが理由でした。

ふるさと納税は、税収が足りない地方の自治体が税源を確保する貴重な手段となるうえ、返礼品を通じて地方の魅力を伝えるという効果もあり、湯川村はまさにこのお手本のように感じました。ふるさと納税は地域活性化の切り札ともいわれています。

しかし、問題点も指摘されています。それは過熱する返礼品競争です。全国各地で宿泊券やアクセサリなどの豪華な返礼品が登場し、過剰な返礼品競争を生んでしまいました。私は、このままでは見返りがなければ税金を払わないといった風潮が広がるようで不安です。ふるさと納税の本来の主旨からどんどん離れているようです。国も是正を

要請していますが、私も一つのアイデアを考えました。何も豪華な返礼品にこだわる必要などありません。例えば、返礼品として地元の祭りやイベントに参加してもらうため交通費や宿泊費の割引券を贈ります。そして地元に来てもらい地元の人と触れ合っておいしいものを食べてもらい、ファンになってもらいます。ふるさとの良さを知ってもらえば豪華な返礼品などなくても寄附してくれる人が増えるはずです。そして集まった寄附金で新たな町づくりの政策を展開していけば、地域が活性化されると思います。つまり、私のアイデアはもう一度ふるさと納税の原点に戻り、自治体が工夫と努力を重ねて全国から応援してもらい、「地域づくり」で競争することです。

ふるさと納税をどう活かしていくのか、それぞれの自治体の工夫と努力で、私たちのふるさは大きく変わり、よりよいふるさとになっていくと思います。その時でこそ、ふるさと納税は本当の意味で、地域活性化の切り札になるでしょう。